

情報紙

MELONとは..

緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境保全に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体でつくられた、NGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため一人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON

Miyagi Environmental Life
Out-reach Network



風力発電推進プロジェクト発足へ

MELONは宮城県内での風力発電の可能性を見極めるためのプロジェクトを結成し、実質的な第1歩を踏み出すため、学習会を開催しました。参加者は木村理事長、芳賀副理事長の他、理事・一般会員・事務局員の9人、講師には東北大学大学院文学研究科教授の長谷川公一先生をお招きしました。

MELONでは昨年9月、和田先生（立命館大学）に講師をお願いして行われた自然エネルギーの学習会を契機に、県内初の風力発電の設置に向け次第に関心と期待が高まってきており、情報紙42号（今年の3月号）では理事長が風力発電の設置を推進していくことを明らかにし、6月の維持会員総会の記念講演では北海道グリーンファンド事務局長の鈴木亨さんに講師をお願いするなど、いよいよ推進主体であるプロジェクト発足の気運が盛り上がっています。

学習会では、長谷川先生から現在の国内外の風力発電の現状と計画が数字を挙げて具体的に解説され

ました。その中で、外国ではデンマークやドイツなど自然エネルギーの利用が計画的にかつ着実に進んでいるのに、日本では法律面での整備が充分でないなどの理由で、外国に比べ伸びが鈍いことが明らかにされました。

長谷川先生の解説の後、9月中に比較的近い岩手県葛巻町か山形県立川町のいずれかの風力発電施設を見学することや、9月15日に北海道で開催される「北海道グリーンファンドの風力発電第1号機祝賀会」に、木村理事長が出席することが計画されました。

さらに、その日の参加者の他に気象関係者や電力に精通した先生方に参加していただき、実際に「風力発電推進プロジェクト」を結成していくことを確認しました。このプロジェクトは、来年2月までの短期プロジェクトとし、風力発電の可能性を調査することを目的とし、月に1回程度会議を行うことなどを決定しました。



<Index>

●報告	風力発電プロジェクト発足1	☑案内	おさがり市6
●特集	COP 6 再開会合に参加して2	●お知らせ	MELON 叢書発行6
📄シリーズ	ときの人4	☑案内	宮城県NGO/NPOイベントカレンダー7
📄シリーズ	かんきょう読み聞かせ ③④4	会員状況7	
●報告	迫川観察会5	📄シリーズ	ストップ温暖化センターみやぎ『通信』⑤8
📄シリーズ	漁民の森 探訪5	●お知らせ	新スタッフの紹介8
☑案内	環境市民講座第5回6			

報告

「COP6再開会議に参加して」

北條祥子（ストップ温暖化センターみやぎ・センター長）

はじめに

今回、「理事一人と一般公募の市民一人をボンに送ることが決まった。温暖化問題に一貫して関与してきたのは北條理事なのでボンに行きたくらい」と連絡を受けたのが6月中旬のことでした。

MELON選出の気候ネットの運営委員としてCOP3に参加し、「ストップ温暖化センターみやぎ」のセンター長を引き受けている私は、熟慮の後、ボン行きを決めました。前期授業が終了し、何とか時間がとれる時期だったからです。

日本の合意引き伸ばし

7月22日の夜10時にボン空港に到着し、翌日の9時30分に会議場に到着しました。はからずもその日が最大の山場で、参加者の多くが徹夜で決定を待っている歴史的な時でした。混雑する人ごみの中で最初に見つけた日本人が気候ネット代表の浅岡美恵先生でした。浅岡さんからこれまでの経緯を説明していただきました。それからいろいろな環境NGOの方に会いました。皆さんが口をそろえて言う言葉は、「今回も合意を最後まで引き伸ばしているのは日本政府。森林吸収で日本の意向を全面的に受け入れたにもかかわらず、次は途上国に対する原発建設分のカウントと罰則規定でゆずらない。昨夜の2時に気候ネットも日本政府に会談を申し入れ、合意をせまったが、川口大臣の姿勢は変わらなかった。今回も日本の責任で合意できないかもしれない」というものでした。

合意

そんな中で全体会議再開のニュースが入り、急いで会議場へかけつけると、各国代表がぼつりぼつりと入場してきました。世界中のマスコミ関係者が、入場してきた川口大臣を取り囲みインタビューを始めました。いろいろな国の代表が川口大臣にあいさつにおとずれ、川口大臣が非常にこやかに挨拶している点が印象的でした。唯一、川口大臣の方から歩み寄ってあいさつしたのがオーストラリア代表でした。

「カナダがアメリカ抜きを批准した後は、日本はオーストラリアとロシアを味方につけて合意を遅らせている」という声を裏付けるような一場面でした。



ボンに派遣された2人

会議が開催され、ブロンク議長の口から合意に達したことが報告されると会場内にどよめきと大きな拍手がおきました。ことに2階の傍聴席の環境NGOのメンバーは全員立ち上がり大きな拍手がしばらく鳴り止みませんでした。

2つのNGO

例え、妥協の産物で後退した内容でも、京都議定書は瀕死のところで、生き返り、ようやく温暖化防止にむけての第一歩が踏み出せることを世界中の環境NGOは喜んでいました。しかし、後日、産業NGOの方の口から「まさか合意するとは思わなかった。困る」という声が聞かれたのも事実です。

COP6には、環境NGOと産業NGOが参加しました。日本からは産業NGOの方が圧倒的に多く、その多くは日本政府に対し、「合意するな」と働きかけるロビー活動を活発に展開していたとのことです。環境NGOは環境省に、産業NGOは通商産業省に、全く逆の内容でロビー活動を展開していたようです。今後は、世論をバックに環境省の発言力を強めるための活動も大事だと痛感しました。

行動提起

ともかく、議定書内容が合意されました。今後は、地域レベルでの取り組みを進めなければなりません。日本で唯一の市民が運営する「ストップ温暖化センターみやぎ」としては、この合意を受けて、宮城県における温暖化防止活動に向けて一歩踏み出したいと思います。

具体的には、次の4つの行動提起をしたいと思います。

- 1) 日本政府に対し、一刻も早く批准するよう働きかける。
- 2) 宮城県において、市民参加で「6%削減案」をつくる運動を起こす。

- 3) 温暖化問題についての勉強会をあちこちで開催する。
4) 温暖化防止に関する教材づくりをする。

地球温暖化問題対策は、「できるできないを論じる課題でなく、やらなければならない課題」だと私は思います。このままにしておくと、人類の未来がなくなるような深刻な問題が地球温暖化です。少なくとも「ストップ温暖化センターみやぎ」はこのような認識から出発したいと思います。

伊藤卓雄（アルプス電気株式会社勤務）

はじめに

7月23日から28日まで、ボンで開催された再開COP 6に参加し、京都議定書が生き残ったという瞬間に立ち会うことができました。森作り運動を進めるボランティアとしての立場から地球温暖化問題に興味を持ってはいたものの、MELONからの派遣という機会がなければ、このような貴重な経験はできなかったでしょう。専門的な解説ができる訳ではありませんので、参加しての感想を中心に報告したいと思います。

ボン合意と日本への評価

仙台を7月22日（日）朝出発しましたが、前日までの時点では、批准の前提となる運用ルールの合意はCOP 6では難しい、COP 7以降に伸びることは避けられそうにない、というのがマスコミの一般的な論調でした。だからこそ会議の後半にあわせて出かけたのですが、我々が到着するまでに思いがけない進展があり、着いた早々全体会議となったことは現地からのレポートで報告した通りです。合意そのものと日本が果たした役割については評価が分かれるようですが、私が見聞した範囲では、恐らく日本人に対する気配りも含めて、"Japan has done a good job"という声が多かったようです。

経過とNGOの活動

1日目、会場で先ず北條先生から、日本から参加しているNGOメンバーに紹介してもらいました。公募で選ばれた一市民として来たということで、皆さんから驚きの声で迎



会議場

えられました。MELONはそこまで力を入れているのか、と思われたか、あるいは変わった活動をしているなと思われたか。いずれにしてもMELONの名を強く印象付ける役目は果たしたと思います。

新参者の私ですが、皆さん暖かく歓迎してくれました。私の最初の任務であったパソコンのメール設定が比較的スムーズにできたのも、皆さんの協力のおかげです。ともかく、最初のテストメールを送信して見て、エラーメッセージが出なかった時は本当にホットしました。

それまでの経過を聞くと、私たちの到着前の1、2日が山場だったようです。多くの方が、もうCOP 6では合意は無理かと思ったと話していました。前夜は、会議の様子をうかがいながらほとんど徹夜という状況だったとのこと。気候ネットワークの浅岡美恵代表は、会議の進捗状況がどうにも気になって、政府関係者以外入れないホテルの3階から上の階にもぐりこんだこともあるそうです。一旦非常階段に出たら戻れなくなり、携帯電話で助けを呼んだといっていました。交渉のそしてまたロビー活動の山場といえる、緊張感溢れる場面に立ち会えなかったのは少し残念でした。

それでも、2日目に環境省の浜中審議官との会談に参加することができました。環境省の側からわざわざNGOに説明したいとの申し入れがあったものです。内容は、川口大臣は経産省からの圧力に対してリーダーシップを発揮して合意までこぎつけることが出来た、その点を理解して頂きたい、という儀礼的なものでしたが、政府もNGOを無視できなくなっているということを実感した初めての会談でした。

また、最終日ですが、NGOの2、3のメンバーは盛んにマスコミ（毎日新聞と共同通信社でした）の取材を受けていました。日本の批准の見通し、最終日の全体会議はどのように締めくくられるか等、専門家としての意見を求められています。「あなたの見解を信じて記事を書きます。」と言う記者もいるくらいに、日本のNGOは力をつけてきたといえます。

今後につながるネットワーク

私にとっての最大の収穫は、多くの方と知り合い、今後につながるネットワークができたことです。これまでの、そして現在の活動状況を何人かの方から聞きましたが、いろんな人がいるな、いろんな形の活動があるもんだな、という思いを強くしました。財政的に豊かなNGOなどあるはずがなく、皆さん厳しい状況で活動を続けている訳で、その執念といったものには感心させられます。私自身はバイオマスエネルギーに興味を持っており、素人が出来る範囲で取り組んでみたいと考えていますが、今回得られたネットワークはきっと大きな助けになると思います。

ときの人 ⑭

佐藤 寛さん (RNECS)

このコーナーでは、現在、環境保全のためがんばっている人、行動する人などにスポットをあてて紹介します。



佐藤さんは、東北大学の学生で、リサイクルや自然エネルギーの利用など、広く環境問題に取り組むことを目指す環境NPO「RNECS」(ルネックス)のメンバーです。

佐藤さんが一番関心を持っているのは、「自然エネルギー」。「自然エネルギーは、エネルギー源として市民が所有できる可能性を持っている。特に風力発電は期待がもてる。」と強調します。RNECSでも、「小型の風力発電機を作り、大学祭のデモと

して携帯電話の充電をやりたい」そうです。

「将来は『環境ベンチャー企業』を興したい。経済的にもペイし、市民にもメリットがあれば必ず成功する」と話します。

佐藤さんは、大学2年のときヨーロッパへの環境スタディーツアーに参加、ステファン・スズキさんの『風の学校』に行き、「新鮮な刺激を受けた。自分の将来を考えさせられた。」といます。そのあと、「実際に何かをしなければ・・・」とMELONやRNECSに参加しました。

佐藤さんは「RNECSのメンバーと10月に、また、デンマークの『風の学校』に行ってきます」と期待をふくらませています。

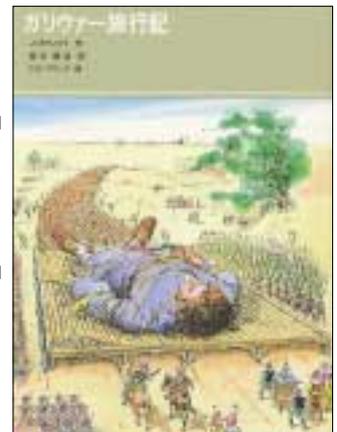


「語るために読む」

く絶望的なくらい新しい科学技術の開発に血眼になっています。おかげで、街や田舎もおそろしいほど荒れ放題になっていたのです。

さて、話も飛んで・・・世界でもっとも二酸化炭素排出量の多いアメリカが、地球温暖化はそう深刻な問題でないというある科学者の予想を利用して、京都議定書の批准をしないという張り、日本もそれを「理解」しているのだそうです。アメリカは、温暖化のモデルを計算するコンピュータやインターネットを始め、ほとんどの新しい科学技術で世界をリードしているのに。

アメリカの人たちも、私たちも、いま、必死になって科学技術の開発あるいは経済活動を行っていますが、それがほんとうに人々のためになっているのを見きわめる必要があります。つまらない政治のおかげで、「一生懸命」が無意味になってしまっていないかどうかということ。坂井晴彦訳「ガリヴァー旅行記」(福音館書店)こそ、それを案内する世界劇場のパンフレットであるかもしれません。



私たちが小さい頃から親しんだ「ガリヴァー旅行記」は、18世紀植民地時代のイギリスで書かれた奇想天外な長編物語です。が、私たちが絵本で見たのはたいていは大男の国など最初の方の物語だけ。物語のストーリーが中心なので原作者ジョナサン・スウィフトの社会風刺・文明批判などこの作品のほんとうのおもしろさが伝わってきません。もちろん、その絵本がストーリーとしてよくできていれば、それはそれでいいのですが、私たちは、もっと奥へと入り込んでもいいんじゃないでしょうか。この本は原作といっても読みやすくできています。

空飛ぶラピュータ島の物語もその一つです。ここは宮殿があって、国王が一般の人々のいる島を支配するための島で、数学や天文学について思索をめぐらし王族たちが音楽を楽しんでいる。支配されている島では、貴族は昔と同じような優雅な暮らしをしているが、人々はとにか

報告

迫川流域観察会開催

MELONでは今年も宮城県からの委託事業「ふるさと環境学習支援業務」の一環として、流域マップの作成を行います。今年は迫川と白石川の2流域について作成いたしますが、それに伴い8月7日、迫川において第1回流域観察会を行いました。

この日は、みやぎ生協加賀野店を出発し、花山ダム、牛淵公園、伊豆野せせらぎ公園の3ヶ所を訪問。参加者はスタッフも含め総勢28名。天候はあいにくの曇り空で最高気温が21 くらいと8月初旬とは思



えないような涼しい日でした。しかし、参加した子ども達はそんな涼しさなどおかまいなしにはしゃぎまわり、牛淵公園では腰まで水につかって小魚を追いかける子どもまでいました。

なお、当日は伊豆沼ウエットランド交流館の高橋所長が1日同行して迫川周辺の歴史や川についてお話しをしてくださり、お話しの中には、昔は迫川沿いの家は船を持ち船で川を行き来していた、といった興味深いお話しもありました。そして、予定にはなかった伊豆野頭首工（川から農業用水を供給する施設・伊豆野せせらぎ公園のモデルとなっている）の源流付近を案内してくださるなど、大変お世話になりました。

今後、MELONでは白石川の観察会及び迫川の第2回第3回の観察会と随時開催していく予定ですので、是非ともたくさんのおみなさんにご参加頂き、自然や川に触れる楽しさを知っていただきたいと思っております。よろしくお願い致します。

漁民の森探訪

室根村の人々との出会い

MELON 理事 櫻井 常矢

大川を上流に辿るとその流れは県境を越え、岩手県室根村へと続く。山に木を植えたいという漁民たちの運動は、この村を舞台としている。室根村は、1955年に当時の折壁村、矢越村、大津保村津谷川地区が合併した村で、人口は約6500人。郡内一の高峰室根山から続く標高500メートル以上の高地が村の7割を占める、農業を主力産業とした地域である。まず、室根山8合目の土地を提供し、室根山に木を植えたいという漁民たちを快く受け入れたのは当時の室根村村長であった。大川の自然環境を大切にしてきた室根村の人たちが、下流に生活する漁民たちと互いの思いをはじめて共有した瞬間である。また、牡蠣の森を募う会では植林と共に気仙沼湾での環境教育を継続的に行い、これまでに県内外から延べ5000人の子どもたちを招いているが、その発端となったのも当時の室根村折壁小学校長のはからいで5年生の生徒を受け入れてからのことである。そして、漁民の森づくり運動を実質的に前進させた陰に、室根村第12区自治区（矢越大洞地区）の農民たちの存在があったことは忘れてはならない。

植林は5年目にして用地の問題から室根山での継続が困難となるが、そんな折、「地元矢越山での



矢越地区からのぞむ室根山

植林を」と協力を申し出たのがこの地区の農民たちである。矢越大洞地区は世帯数約100戸、北に室根山、東に矢越山を望みその中心を大川が流れる実に長閑な土地にある。これを契機に、植林の本数はそれまでの数十本から数千本へと規模を大きく拡大し、漁民による植林運動は農民との連携によって本格的な展開を見せることになる。しかし、なぜ矢越大洞地区の農民はこの運動に立ち上がったのであろうか。矢越の人々の様子について、もう少しのぞいてみよう。

ご案内

大量リサイクルで
資源循環はできない

MELONセミナー企画プロジェクトでは、10月11日（木）講演会「大量リサイクルで資源循環はできない」を開催します。

講師の中村さんは99年5月にMELONが開催した「ゴミシンポジウム」でコーディネーターをしてくださった環境ジャーナリストです。多くの方の参加をお待ちします。

日時：2001年10月11日（木） 13:30～15:30

場所：フォレスト仙台5階（仙台市青葉区柏木）

講師：中村正子氏（環境ジャーナリスト、目白大学・短期大学非常勤講師）

費用：一般500円、学生250円（資料代）

主催：MELONセミナー企画プロジェクト

共催：みやぎ生協、日専連仙台

ご案内

MELONみんなでおさがり市



「ものを大切にしたい、自然をみんなで守っていききたい」そんな気持ちをこめて、MELONでは今年も恒例の「MELONみんなでおさがり市」を開催します。

このリサイクル・フリーマーケットを通して、使い捨て・大量消費からスリムな暮らしへの転換をアピールしてみませんか。今年も「おさがり市」は「古布の山」など満載の内容で10月21日（日）に開催されます。みなさんでご参加ください。



～開催案内～

開催日：2001年10月21日（日）

10:00～14:00（小雨決行）

会場：勾当台公園市民広場

出店数：130店

区画面積：1.8m×1.8m

出店料：2,000円

締め切り：9月30日

応募方法：往復はがきに住所・氏名・電話番号・出品物をご記入の上、ご郵送ください。

応募多数の場合は抽選になります。

MELON
叢書出版

ナイスエイジのIT革命

MELON情報センターが東北大学のプロジェクトチームと共同で行った実験・研究をまとめた本が出版されました。書名は、MELONの参加した研究成果を広く社会に還元するこの本は、MELON叢書の第1号として、八朔社から定価1,300円で発売されています。

本の内容は、IT革命に代表される情報化の波が押し寄せる現代社会の中、高齢者や家庭の主婦がどのようにしてインターネットなど先端技術の恩恵を受けることができるか、を実験に基づいて1冊の本にまとめ上げたものです。そこには、ウィットに富んだ井戸端会議のレベルから、一挙に情報処理技術へと誘う爽快感があります。ITが若者だけのものではなく、やろうと思ってもなかなか足を踏み出せないでいる、同じ悩みを抱えた主婦・高齢者の強力な手段であることを知らせて

くれる勇気の湧く1冊です。

ご希望の方は、MELON情報センターまでmailかFaxでご注文ください。原価（1,000円・送料別）で販売いたします。（お支払いは郵便振替となります。）



ご案内

イベントカレンダー

詳細は各団体にお問い合わせ下さい。

青葉山の緑を守る会	定例青葉の森観賞会&トトロかんさつ会 980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉342-11 022-229-4196(植村)
加瀬沼遊歩の会	10/28(日) 海岸林の自然観察 松島海岸駅9:30(予定) Tel.022-356-4070(佐々木)
仙台のブナ林と水・自然を守る会	9/15・16(土・日) 炭焼き体験 陸前落合駅9:30集合 場所:奥武土(大沢) 10/13~15 日本の炭全国集会在 札幌(詳細は事務局問い合わせ) 982-0811 仙台市太白区ひより台24-18 Tel.022-245-0254
桜会	9/23(日) フリーマーケット 西公園 10/14(日)フリーマーケット 泉区役所 982-0842 仙台市太白区越路 2-10 Tel.022-223-0569(佐藤)
宮城の環境と公害を考える会	9月下旬 能代・酒田風力発電所建設予定地調査 Tel・Fax 022-256-7338(三浦)
クリーンアップ蒲生	10/6(土) 国際ピーチクリーンアップ運動 9:40~ 宮城野区蒲生 蒲生干潟 (T/F) 022-284-5655(伊藤)
サイカチ・ネイチャー・クラブ	9/16(日) 観察会 9/30(日) 「ピオトープ管理士試験」会場支援活動 980-0822 仙台市青葉区立町 12-1 アール・エル・シー・ジャパン内 (T/F)022-262-2731 mon@technowave.ne.jp
仙台みやぎネイチャーゲームの会	10/21(日) 全国一斉 自然とふれあうネイチャーゲーム大会 9:30西公園交番前集合 Tel・Fax 022-244-6776(村田)
わらしべ舎	9/15~17 チャリティー企画現代国際巨匠絵画展 10:00~17:00 勝山ホール 入場無料 Tel.022-277-0081 Fax.022-277-8809(中村)
キブシの会	毎月第3土曜 植物散策 13:00~ 八木山市民センター 984-0835 仙台市若林区今泉 1-12-15 Tel.022-289-5608(渡辺 事前に要電話)
東部地区梅田河川環境浄化推進協議会	9月下旬移動研修会 983-8601 仙台市宮城野区五輪2-12-35 宮城野区保健福祉センター衛生課内 022-291-2111内線6726
仙台・水の文化史研究会	9/15(土)10時~15時 市役所前広場「仙台市下水道フェア」展示コーナー 981-0911 仙台市青葉区台原3-13-6 Tel・Fax 022-233-6824(佐藤)
「四ツ谷の水を町並みに!」市民の会	9/15(土)10時~15時 市役所前広場「仙台市下水道フェア」展示コーナー 10月中旬 「むかし発見!四ツ谷用水」カルタづくりの第2回 会場未定 981-0911 仙台市青葉区台原3-13-6 Tel・Fax 022-233-6824(佐藤)
水魚方式研究会	6月~9月 梅田川流域の水循環機構解明調査 随時 環境紙芝居、カルタ等環境教材の製作 981-0952 仙台市青葉区中山2-39-13 (T/F)022-279-9104(西林)
デボネット宮城	月1回程度の例会 983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-11-5 A-105 ACT53仙台気付 (FAXのみ)022-295-2910(木下)
黒松婦人の会	10/7(日) 生活用品即売会 11:30~15:30 黒松市民センター2F研修室 981-0901 仙台市青葉区北根黒松10-18 Tel・Fax 022-234-8953(小堀)
青葉山の緑を守る会	9/9(日) 2時間ほど市有林「青葉の森」散策 宮教大正門前集合 10/14(日) 定例青葉の森視察会&トトロかんさつ会 980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉342-11 (T/F)022-229-4196(植村)
ゆうあい・こうげんクラブ	9月より食べ物と病気・体の不調についての勉強会(日程調整中) こうげん堂2F 13:30~ Tel 022-265-4465 Fax 022-265-8353(大谷) e-mail:club@kougendo.co.jp
ACT53仙台	ボランティア募集(お店の調査、パソコン入力、編集)詳しくは問い合わせ Tel/Fax 022-295-2910 e-mail:act53@nobi.or.jp
ツキノワグマと棲処の森を守る会	9月中旬 クマを語る集い 盛岡市 982-8691 仙台南郵便局私書箱36号 (T/F)022-295-1320(板垣)
泉ローターアクトクラブ	9月上旬 七北田公園の清掃 981-3117 仙台市泉区市名坂字町69 七北田幼稚園内 022-372-3327(平野)
広瀬川の清流を守る会	公開講座 毎月第4水曜日 19時~ たいはつくる 河川清掃 毎月第2土曜日 10時~ 広瀬橋 982-0011 仙台市太白区長町1-7-32 昭和宅建内 Tel.022-247-6522 Fax.022-249-3234(日下)
自然食品たんぼぼ	10月初めの1週間 秋の収穫祭&秋のセール 981-3132 仙台市泉区将監10-8-10 Tel.022-373-2225 Fax.022-373-2234
みやぎの自然学校	11/10(土) 里山観察路づくり 松島町手樽駅9:10集合 983-0005 仙台市宮城野区福室5-22-6 022-254-8540(保谷)
水環境ネット東北	9/19・20(水・木) 多自然型川づくりセミナー 片平市民センター 980-0811 仙台市青葉区一番町1-15-19 菅野トーキビル202号 Tel.022-217-2327 Fax.022-217-2328(富永)

環境クイズ

7月号「MELON環境クイズ」の正解は(C)380万トン
でした。当選者は

- ・千葉英朗さん(仙台市泉区)
- ・高橋厚子さん(栗原郡鷺沢町)
- ・大塚由紀子さん(塩釜市)の3人の方です。

当選者にはMELON協力商品券(¥1,000)をお送りしました。
次回の環境クイズは11月号です。

会員状況



合計	1,060
法人	133
任意団体	16
個人	911
(2001年7月31日現在)	

ストップ温暖化センターみやぎ「通信」⑤

報告

再開COP6代表派遣者 緊急報告会

4月に行われた「緊急市民集会 in 仙台・京都議定書を守れ!」の時に提案されて実現した、再開COP6への市民代表派遣の2名による再開COP6の現場の様子を伝える緊急報告会が、8月4日(土)午前10時30分から、フォレスト仙台5階にて行われました。



木村修一理事長からの挨拶の後、ストップ温暖化センターみやぎの北條センター長(MELON理事)から再開COP6に至るまでの経緯、会議期間中の各国政府の動きなどについて解説がありました。その後、公募によって選ばれた市民代表の伊藤卓雄さんから会議場内外での環境NGOの活動の様子や、ドイツ・ボン市内の環境に配慮した施設や店など、スライドを交えての紹介がありました。お二人の話の中で、自動車業界などの産業NGOが活発に提言活動をしていた様子など、議定書を批准しないように働きかける団体も多く参加

していたことなど新聞では得られない情報も紹介されました。

最後に北條センター長から、これからの課題として、(1)日本政府に京都議定書を批准してもらうよう世論を盛り上げていくこと、(2)京都市や豊中市ではNGOなどが中心となって削減案を作っているが、宮城でも地域にあった削減案を作っていくこと、(3)温暖化問題、正確には気候変動問題の何が問題なのかについて勉強し、解決策を考えていくこと、(4)環境省にがんばってもらうためにも、NGOの連携や発言力を高めていくことなどが挙げられました。

参加者は30人弱と前回の緊急市民集会の時と比べて、少なかったものの多くの質問や意見が出て、有意義な報告会となりました。参加者からの感想には、やはり生の声で聞くのは新鮮で興味が持てる。これからの課題についてどうしたらいいのか考えなくてはいけないと感じた、などの意見がありました。

お知らせ 事務局 新スタッフの紹介

MELON事務局では、5月から7月にかけて5人の新しい職員を迎え入れましたので、ここにご紹介します。今後ともよろしくお願ひします。なお、「ふるさと環境学習支援事業」は、宮城県からの委託事業です。

小林幸司

- ・担当：ふるさと環境学習支援事業
- ・出身地：横浜市
- ・出身校：立教大学経済学部
- ・趣味：旅行、野球、アメフト観戦
- ・特技：どこでも眠れる
- ・ひとこと：活動を通じ、今後も素晴らしい人たちと出会っていきたいです。



安藤 恪

- ・担当：ふるさと環境学習支援事業
- ・出身地：福島県郡山市
- ・出身校：福島大学経済学部
- ・趣味：囲碁、旅行
- ・特技：特になし
- ・ひとこと：何でも第1歩。MELONにおいても一歩一歩大事に進みたい。



鈴木美紀子

- ・担当：ふるさと環境学習支援事業
- ・出身地：仙台市
- ・出身校：尚絅女学院短期大学人間関係科
- ・趣味：ピアノ
- ・特技：菓子作り
- ・ひとこと：初心者マークをつけながらですが、よろしくお願ひします。



南隆昭

- ・担当：ストップ温暖化センターみやぎ
- ・出身地：岐阜県中津川市
- ・出身校：京都大学大学院農業研究科
- ・趣味：読書
- ・特技：タイ語日常会話
- ・ひとこと：農林水産業全般に興味があるので、MELONの活動を通じていろいろな話を聞きたいです。



中川 勇士

- ・担当：情報センター
- ・出身地：京都市
- ・出身校：東北大学大学院文学研究科
- ・趣味：音楽、映画、食べ歩き
- ・特技：トランペット、ディジュリドゥ(楽器)
- ・ひとこと：ホームページを作っています。1日1回アクセスして下さい。



発行元 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

事務局 Tel 022-276-5118 Fax 022-276-5160

情報センター Tel 022-301-9146 Fax 022-219-5710

ストップ温暖化センターみやぎ Tel 022-301-9145 Fax 022-219-5710

ホームページ <http://www.comminet.or.jp/people/melon/> E-mail melon@cir.tohoku.ac.jp